EAS設置台数は増加へ

万引防止システムの市場規模調査結果を公表

JEAS

日本万引防止システム協会（以下、JEAS）は、「2021年万引防止システムの市場規模に関する調査」を実施し、その結果を公表した。コロナ禍などの影響で、近年は減少傾向だったEAS機器等の設置台数が増加に転じており、調査結果からは小売業のロス対策が広がっている様子が伺える。

今回の調査は、JEASの会員企業と会員以外で万引防止システムを製造・販売している企業を対象に、アンケート方式で実施した。

調査結果では、2021年のEAS機器等の設置台数は1万2159台で、前年比で3・3%増となった。2017年以降は減少傾向だったが、4年ぶりに増加に転じた。

出荷金額も前年比で13・6%の77億5475万円となり、設置台数と同様に前年の減少から増加に転じた。EAS（機器表示）ステッカーが貼付されている機器の台数は1万1882台で、全体の97・7%を占める。

動作方式はRF方式が8726台、AM方式が1809台、RFIDが896台、自鳴方式が553台、EM方式が176台だった。

店舗別の設置状況を見ると、最も多いのがドラッグストアの4051台で、以下は家電量販店の2237台、ホームセンターの1631台の順で続く。店舗別の割合でも、最も多いのがドラッグストアで3分の1程度の33・3%に達する。そして、家電量販店が18・4%、ホームセンターが12・4%と多い。

顔認証システムの設置は686店で、前年の511店から大幅に増加。出荷金額も9億7176万円で、2年連続で増加している。

利用用途で最も多いのは、「防犯（再犯防止・迷子探し）」で、「入退場管理」が続く。

AIシステムの設置は631店で、前年比で229店の増加。出荷金額は4億4201万円で、前年比で1億3761万円の増加となり、採用が広がっている。採用されている技術は、「動線、混雑、人数カウント」と「動作分析」が多い。

販売されたシステムのデータ保管場所は、設置店舗が大半となっており、組織内における情報管理体制の更なる徹底が求められる。